原小だより

横浜市立原小学校
令和８年１０月３０日
１１月号
http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/hara/

『イッツ・ア・スモールワールド
～小さな世界～』

作曲　Richard M. Sherman Robert B. Sherman

作詞　Richard M. Sherman Robert B. Sherman

世界中どこだって
笑いあり涙あり
みんなそれぞれ助け合う
小さな世界

世界はせまい
世界は同じ
世界はまるい
ただひとつ

世界中誰だって
ほほえめば仲良しさ
みんな輪になり手をつなごう
小さな世界

世界はせまい
世界は同じ
世界はまるい
ただひとつ



つながる力～子どもの姿から感じる～

校長　　髭白　梨香

「ハロー。」

日光修学旅行で、中禅寺湖を渡るクルージングの船上でのことです。海外から来られた方を見つけた 6 年生が、思い切って声をかけました。最初は少し緊張した様子でしたが、相手の方が笑顔で応じてくださると、知っている英語や身振り手振りを使いながら会話を楽しんでいました。言葉が十分に通じたわけではありません。それでも、「話してみたい」「つながりたい」という気持ちはしっかりと伝わっていました。別れ際に手を振り合う子どもたちの表情は、自信と喜びにあふれていました。

修学旅行では、そのような姿が様々な場面で見られました。仲間同士で声を掛け合いながら時間を守って行動し、バスの中ではみんなが楽しめるように工夫を凝らしたレクリエーションで温かな雰囲気をつくり出していました。子どもたちの姿は、宿泊先の方の心にも届いていました。「原小学校の子どもたちは、挨拶がとても素晴らしいですね。」到着した時も、食事の時も、そして出発する時も、子どもたちは自分から進んで挨拶をしていました。その姿を見ていた宿の方が、わざわざ私たちに声を掛けてくださったのです。挨拶は特別な活動ではありません。しかし、自分から相手に心を開き、相手を大切に思う気持ちがなければできないことです。日々の学校生活の中で積み重ねてきたことが、このような形で相手に伝わったことを大変うれしく思いました。

また、5 年生は今年から始まった幼保小交流に取り組んでいます。これまで本校では、1 年生が園児との交流を行ってきましたが、来年度最高学年となる 5 年生にも交流の機会を広げることにしました。交流が始まる前、教室の入り口で園児たちを待つ 5 年生の表情には、少し緊張した様子も見られました。ところが、園児たちが到着すると、「こっちだよ。」「だいじょうぶ。」と自然に声をかけ、優しく手を差し伸べる姿があちらこちらで見られました。活動の途中、一人の園児が戸惑って立ち止まっていると、一人の 5 年生がそっと近づき、「いっしょにやろう。」と声をかけていました。その姿を見ながら、人と人とのつながりは特別なことから生まれるのではなく、相手を思い、勇気を出して一歩近づくことから始まるのだと感じました。来年度、5 年生は最高学年として学校をリードする立場になります。今回の交流は、その第一歩となる貴重な機会でした。相手の気持ちを考えながら関わる力や、温かく人を迎え入れる力を育むために、今後も園児との交流活動を継続していきたいと考えています。

日光での出会いも、幼保小交流での出会いも、子どもたちが自ら一歩踏み出したことで生まれたつながりです。その一歩が相手の笑顔につながり、自分自身の成長にもつながっていきます。

学校は、人と人とがつながりながら成長する場でもあります。これからも子どもたちが様々な出会いの中で学び、人を大切にし、自らの世界を広げていけるよう支えていきたいと思います。そして、人とのつながりの中で、安心して成長できる学校を、子どもたちとともに創っていきたいと考えています。